

令和6年1月12日

各 位

一般社団法人 全国信用組合中央協会

「日本教育新聞」 第14回懸賞作文記事掲載について

今般、第14回懸賞作文「小さな助け合いの物語賞」にかかる記事が日本教育新聞に掲載（令和5年11月27日、12月11日）されましたので、お知らせいたします。

○令和5年11月27日（月）掲載

- ・紙面ニュースBOX  
「第14回「小さな助け合いの物語賞」表彰式開催」
- ・電子版記事（半永久的掲載）

URL：<https://www.kyoiku-press.com/post-265919/>

○令和5年12月11日（月）掲載

- ・紙面全5段記事広告  
「『徳育奨励賞』に筑紫高校 作文で地域を見る目を養う」
- ・電子版記事（半永久的掲載）

URL：<https://www.kyoiku-press.com/post-266547/>

# 第14回「小さな助け合いの物語賞」表彰式開催

全国信用組合中央協会

一般社団法人全国信用組合中央協会は、10月20日に経団連会館にて、第14回「小さな助け合いの物語賞」の表彰式を開催した。

「小さな助け合いの物語賞」は、作文の応募が輝いた。佐伯の言葉「小さな助け合いの物語賞」を通じて豊かな心を育てたいこと(徳の育成の推奨)を目的とした作文コンクールで、家族や友人、同僚など身近な関係での助け合いに基づいた作品は以下の通り。(敬称略)

酒井章子(大阪)「誰も知らない小さな助け合いの物語」  
栗林良衣(岡山)「手から手をつないでいく」  
織茂麻子(宮城)「ただたどしい手話で、あなたかい助け合い」  
▼徳育奨励賞(1校) 応募数の最も多かった福岡県立筑紫高等学校



表彰式の様子

受賞者および受賞作品は以下の通り。(敬称略)

- ▼しんくみ大賞(1編) 佐伯理奈(東京・光塩女子学院高等科)「私の大好きな町」
- ▼しんくみきずな賞(1編) 西尾香織(神奈川)「母のハダ」
- ▼未来応援賞(2編) 河野すみれ(東京・武蔵野大学付属千代田高等学校)「あいがとのリレー」
- ▼徳育奨励賞(1校) 応募数の最も多かった福岡県立筑紫高等学校
- ▼徳育奨励賞(1校) 応募数の最も多かった福岡県立筑紫高等学校
- ▼徳育奨励賞(1校) 応募数の最も多かった福岡県立筑紫高等学校

受賞作品は同協会のホームページより閲覧が可能。



同協会  
ホームページは  
こちらから

# 「徳育奨励賞」に筑紫高校

## 作文で地域を見る目を養う

第14回感賞作文「小さな助け合いの物語」(主催：全国信用組合中央協会)の受賞者が10月20日発表された。今回より新たに団体応募の中で最も応募数が多い学校を表彰する「徳育奨励賞」には福岡県立筑紫高校が輝いた。同校は2年生の382名が応募した。文章表現力を磨くために生徒に応募を呼び掛けた筑紫高校・国語科の國友由美教諭に受賞の喜びや応募の経緯などを聞いた。

筑紫高校の卒業生で「勧めました」と國友教マは、助け合いの具体もある國友教諭は「学論は話す。校の取り組みを評価し、生徒に応募を勧めるたためありがとうございます。決め手になったのは、母校の受賞はうれしい。応募してくれた後輩」でもある生徒たちのほか、生徒たちが成長する機会になると応募の取り組みに賛同してくれた国語科の同僚教師に感謝したい」と受賞の喜びを語った。

「小さな助け合いの物語賞」は、地域での助け合いなどをテーマとする作文コンクール。同校が団体応募したのは今回が初めてだ。応募のきっかけは2年生は1年生の時から夏休みや冬休みの課題として詩や短歌、川柳、俳句など各種の公募文芸賞に挑戦しており、自身のさまざまな思いを伝える豊かな表現力を磨いています。さらにその表現力に磨きをかけてもらうと、同校、小さな助け合いの物語賞が求める作文のテーマに、受賞の喜びや応募の経緯などを聞いた。

### 外の世界を見る目を養い 実社会とつながる

「小さな助け合いの物語賞」は、地域での助け合いなどをテーマとする作文コンクール。同校が団体応募したのは今回が初めてだ。応募のきっかけは2年生は1年生の時から夏休みや冬休みの課題として詩や短歌、川柳、俳句など各種の公募文芸賞に挑戦しており、自身のさまざまな思いを伝える豊かな表現力を磨いています。さらにその表現力に磨きをかけてもらうと、同校、小さな助け合いの物語賞が求める作文のテーマに、受賞の喜びや応募の経緯などを聞いた。



授業をする國友教諭



右から瀧尾博栄校長、主催団体の代表職員(阿部真也氏)

とが、生徒たちの関心は異なる視点から周囲を見る目を養い、表現を磨く「アンテナ」する力になると考え、手に入れたと思えます」と指摘する。

生徒たちがこれまで挑戦した詩や俳句、川柳は、短い文字数で自分の思いを凝縮し、919・94の業績を影射する「安西均秋詩」が応募条件で、一定の結果を残している。國友教諭は「生徒が受賞すると、受賞した当人は自信を得ますし、ほかの生徒にとっては、生徒たちの感性を磨く身近な先輩や同級生らの受賞は励みとなり、創作意欲が高まります。

國友教諭は「今回の作文の応募条件は4000字以内で、原稿用紙2枚以上なので、それなりに文章構成力を要求しますが、応募した全員が周知の文章構成力や表現力に磨きをかけてもらうことが、このコンクールの大きな意義です。受賞した生徒は、表現の幅を広げ、創作意欲が高まります。

同校は目標の一つに「高次元の文武両道の教育」を掲げ、自立心とチャレンジ精神を育て、家族・友人関係の先にある地域との関係について一度振り返って作文を書いてみることを目指しています。そのためには、自立心とチャレンジ精神を育て、家族・友人関係の先にある地域との関係について一度振り返って作文を書いてみることを目指しています。

同校は目標の一つに「高次元の文武両道の教育」を掲げ、自立心とチャレンジ精神を育て、家族・友人関係の先にある地域との関係について一度振り返って作文を書いてみることを目指しています。そのためには、自立心とチャレンジ精神を育て、家族・友人関係の先にある地域との関係について一度振り返って作文を書いてみることを目指しています。

同校は目標の一つに「高次元の文武両道の教育」を掲げ、自立心とチャレンジ精神を育て、家族・友人関係の先にある地域との関係について一度振り返って作文を書いてみることを目指しています。そのためには、自立心とチャレンジ精神を育て、家族・友人関係の先にある地域との関係について一度振り返って作文を書いてみることを目指しています。

同校は目標の一つに「高次元の文武両道の教育」を掲げ、自立心とチャレンジ精神を育て、家族・友人関係の先にある地域との関係について一度振り返って作文を書いてみることを目指しています。そのためには、自立心とチャレンジ精神を育て、家族・友人関係の先にある地域との関係について一度振り返って作文を書いてみることを目指しています。

○日本教育新聞 掲載記事

2023 (令和5) 年 12月 11日 (月) 掲載 (全5段広告)

『「徳育奨励賞」に筑紫高校 作文で地域を見る目を養う』